

令和5年 大学院短期招聘研究員の研究報告

令和5年度國學院大學大学院国際学术交流事業による短期招聘研究員の招聘に伴う研究活動について、下記のとおりご報告いたします。

招 聘 者：文学研究科 教授 大石泰夫

招聘研究員：劉海宇（山東大学文化遺産研究院教授）

招 聘 期 間：令和5年7月1日（土）～令和5年7月31日（月）

学术交流報告（講演会等）①：

実施日時：7月7日（金）

実施場所：0509演習室

タイトル：飛鳥の酒船石について

参加対象：文学研究科学生・教員

概 要：飛鳥の酒船石とは、奈良県高市郡明日香村大字岡の丘陵上にある謎の石造物のことである。この石造物は、江戸時代から「むかしの長者の酒ぶね」という地元の民間伝承から「酒船石」と命名されたという。昭和二年四月に史跡に指定されたが、その用途については、長者の酒槽であるという説、灯油や辰砂の製造装置と考える説、あるいは天文観測施設とみる説から道教と関わる宗教的の石造物とする説まで様々あり、現在に至っても定説をみない。そこで、本発表では、曲水宴の源流である中国の古代資料との比較に基づき、このような石造物の歴史上における呼称を究明し、また文献に描かれている「山水」字流杯石の詳細を照合することによって、酒船石の用途を明らかにする。結論としては、飛鳥の酒船石は中国古代に広く流行した曲水流觴のミニチュア版である流杯石と同定することができるのではないかと指摘した。

学术交流報告（講演会等）②：

実施日時：7月15日（土）

実施場所：6B11教室

タイトル：和泉市久保惣記念美術館蔵中国古印の調査研究

参加対象：オンラインで国際シンポジウム

概 要：周知のように中国古印は、中国古代制度史・社会史・芸術史・文字学などの

研究において重要な史料である。

園田湖城（1886—1968）は日本近代著名な篆刻家・印学資料収蔵家で、日展審査員・日本篆刻連盟理事・同風印社主宰等の要職を歴任した。園田氏の古璽印と古銅印譜コレクションはよく知られており、太田夢庵（1881—1967）とともに日本における中国古璽印収蔵の双璧とも称される。1988年久保惣株式会社は、園田氏旧蔵古璽印と古印譜とを合わせて1320点を購入し、2004年に和泉市に寄贈した。現在、和泉市久保惣記念美術館に古璽印645点を保存しており、すべて園田氏の旧蔵品である。本報告では、現地調査によって得られた詳細資料を用いて、園田湖城の篆刻・古璽印収蔵と所蔵古璽印の学術価値等について検討した。

学術交流報告（講演会等）③：

実施日時：7月29日（土）

実施場所：6B11教室

タイトル：日本に所蔵される中国古印に関する調査研究—岩手県立博物館蔵品を中心として—

参加対象：東アジア文化研究国際学術シンポジウム

概要：周知のように中国古印は、中国古代制度史・社会史・芸術史・文字学などの研究において重要な史料である。中国古印は、その機能により、公的なものとしての官印と、私的なものとしての私印とにおおよそ分類されており、ほかに紋様としての肖像印などもある。材質から分類すると、銅印・銀印・金印・玉（石）印・陶印・骨印・角印などに分かれる。古印の学術的価値は、まず古代文字の変遷などを追跡することができ、漢字学研究上不可欠の古文字資料である。さらに先秦から秦漢六朝期の官印は、封泥や文献資料と合わせて、官制地理の考定・史籍の不備脱漏などを証補する重要な歴史資料でもある。本報告では、日本に所蔵される中国古印の概要・太田夢庵略年譜・太田夢庵印学資料の収集・岩手県立博物館中国古印コレクション概要・岩手県立博物館蔵中国古印の学術価値などの内容を中心にして、これまでの研究成果をまとめた。